

講演会そのものは、風と虹の診療所の路線に役立ったでしょうか。  
皆さんとの話し合いなどがあつたら良かったのでしょうか？と思っています。  
最期のときの過し方～マザー・テレサが大切にした愛と死の価値観～に伝えられていたのか、帰路ずっと気にしながらおりました。

講演会の折りによく話せなかったことを書き足してみます。

当日のレジメの中に(8)「マザー・テレサからのお願い」の2番目＝帰天 1997年9月5日です。

マザーはその日も一日中事務室で働いていましたが、夕食の席に着くと急に気分が悪くなりその場にうずくまったそうです。

周りにいたシスター達3人のが大急ぎで二階にあるマザーの個室に運び込みました。

ベットに横たわったマザーは壁に掛けられた十字架に向って、手を伸ばし(Jesus, I trust you==イエス様 あなたを信じています。愛しています)と小さく祈ったと言います。

私が最近 出版した近刊本「映画で人を育てたい」(マザー・テレサに魅せられて)＝(燦葉出版社)62ページの中でマザーはよくこのように言っていました。

「私は苦しむ彼らの言葉を話すことは出来ないかも知れませんが、微笑むことはできます。心の中でマザー・テレサの微笑みを保ち、人生の中で人びと、時に苦しむ人たちに贈りましょう。理解や優しさを求めている人びと、落胆した人びとに、希望と喜びの世界を開き世界に伝えましょう」